

3. 生産性を高める働き方に向けて

～発注者と受注者が協働して取り組むべき施策の方向性

システム開発の現場では、現場でのトラブルや開発スケジュール等の遅延により長時間労働が発生するケースがありますが、IT業界特有の多重下請構造により各企業の自助努力だけでは改善が難しいのが実態です。システム開発を円滑に進めるためには、発注者・受注者間の密なコミュニケーションを前提とした取引の可視化、役割分担・責任関係の明確化が必要不可欠です。そして、システム開発を円滑に推進することが双方にとっての働き方改革の実現やモチベーションの向上にも繋がると考えられます。こちらでは、発注者・受注者の良好な関係の構築に向け、協働して取り組むべき施策の方向性と、その施策に取り組む上での留意すべきポイントをご紹介します。

発注者・受注者の良好なパートナー関係の構築

【基本的な考え方】

社会基盤となるITシステムの開発は長い工程を経て行われ、その工程には多くの事業者が関わっています。IT産業において受注者は極めて重要な役割を果たしており、受注者の有する技術力やサービス力、生産性が発注者の事業活動に直結します。しかし、受注者の事業活動は、発注者との取引・発注のあり方に多大な影響を受けます。受注者の不利益となる取引の要請や働き方改革への取組を阻害することが無いように、発注者・受注者間の公正な取引と正当な利益の確保に努める必要があります。

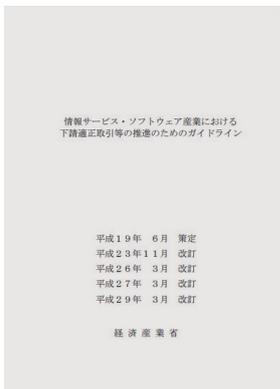
【施策の方向性】

- ✓ 取引に関わるステークホルダ（発注者、受注者、パートナー企業）が働き方改革を促進できるように、受発注者間の契約に働き方改革に係る条項を盛り込む等コンセンサスを醸成する。
- ✓ ITや受発注に関する発注者の理解やプロジェクトのゴール、開発状況の「見える化」を推進することで、双方の共通理解を深める。
- ✓ テレワークに必要なコミュニケーションツールやセキュリティ対策等の環境整備は発注者・受注者の双方が納得できる形で責任を持って推進し、職場・オンサイトと同様の環境を構築する。

【留意すべきポイント】

- ✓ 受発注者間の契約が形骸化しないように、各フェーズ毎に念押しする等、合意されたルールを実行出来る仕組みを整える。
- ✓ 発注者の担当者だけでなくキーパーソンや経営層・上層部、さらには各部署まで巻き込む工夫を行う。
- ✓ テレワーク環境を整備する一方、必要に応じてリアルな場を設けコミュニケーションを取るなど、生産性を最大限高めるコミュニケーション方法をチームで検討する。

【参考】



情報サービス・ソフトウェア産業における下請適正取引等の推進のためのガイドライン



未来志向型の取引慣行に向けて
～情報サービス・ソフトウェア産業編～



「情報システム・モデル取引・契約書」
第二版

開発標準の導入による秩序あるプロジェクト運営

【基本的な考え方】

発注者・受注者、パートナー企業との間で、開発の進め方や仕事のやり方が合わず認識齟齬が生じると、生産性が低下し長時間労働の発生リスクが高まります。この問題に対する解決方法として、プロジェクト関係者間で共通のルール、標準を共有することです。また、近年ITシステムに求められる役割の変化からステークホルダが多岐に亘る中、ステークホルダが対等な立場を築くために、開発標準を導入・共有することによって、イレギュラーな要求を排除し、秩序あるプロジェクト運営の一助となることも期待できます。

【施策の方向性】

- ✓ プロジェクトに関与する発注者、受注者、パートナー企業の全員が開発の進め方や仕事のやり方に関する共通のルール、標準を共有する。
- ✓ 開発標準の導入によってソフトウェア開発の品質を安定させる（一定の水準を保つ）ことで手戻りを減らし、開発の生産性を高める。
- ✓ プロセスを工夫する文化を醸成することで、プロセスの改善や生産性の向上を図り、働き方改革への成果に繋げていく。

【留意すべきポイント】

- ✓ 組織やプロジェクト特性に合ったルールや標準の共有化を図るとともに、技術の変化にあわせて継続的な見直しを行う。
- ✓ 大規模プロジェクトなど経験の浅いメンバーが多くなるプロジェクトほど、共通のルールや標準を事前に共有する。
- ✓ 単に標準化の側面を見るだけでなく、開発組織の能力を高めるために関連する技術をどのように活用していくか、それぞれの現場で考えを深める。

【参考】

・SEC BOOKS 共通フレーム2013

ソフトウェア、システム、サービスの構想から開発、運用、保守、廃棄に至るまでのライフサイクルを通じて必要な作業項目、役割等を包括的に規定した共通の枠組みです。ソフトウェア、システム、サービスに関係する人々が“同じ言葉話す”ことができることを目的とし、それによって利害関係者同士の認識のズレによるトラブルの発生などを防ぎます。ウォーターフォールやアジャイルなど全ての開発方法論に共通したものです。



・VSE (Very Small Entity) 標準

VSE標準は最小限度で信頼のおけるソフトウェア開発のあり方をグローバルに通用する国際標準としてまとめたものであり、小規模組織での開発に適合したソフトウェアプロセスを提示しています。VSE標準ソフトウェアプロセス(基本プロファイル)は、プロジェクトで利用し作成するすべての作業成果物(WP: Work product)を、一括管理するプロジェクトリポジトリを中心にして、ソフトウェア実装と、それを支援するプロジェクト管理との2つのソフトウェアプロセスで構成します。

